

新・こどもと健康

No.79

2023.8.1

いろいろな薬の供給が滞っています

本年6月現在、全医薬品の14%が限定出荷、8%が供給停止となっており、合わせて3,882品目にもなります。当科でも、粉末解熱剤、錠剤の咳止め、貼付薬の気管支拡張剤の一部等が在庫切れです。

発端としては、2020年12月ジェネリック薬品メーカーの小林化工株式会社が製造した抗真菌薬に睡眠導入剤が混入されていたことです。小林化工は116日間の業務停止、業務改善命令が出され、その後自社での再建を断念、サワイグループHDに全機能を移管し、2023年4月1日から業務が再開されたところ。小林化工だけで約200品目が関与していました。小林化工の事件のあと、自主点検や査察などで他の製造メーカーでも業務停止や業務改善命令が出る事態となり、生産量が減少しました。もともと厚生労働省は医療費抑制のためとしてジェネリック薬品を推奨し、2021年にはジェネリック薬品のシェアは79%まで上昇していました。一方で毎年薬価を下げ続けて、ジェネリック薬品メーカーは設備投資が困難になっていきました。利益率を上げるために原薬の海外依存度が上がっている中、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によるロックダウンに伴ってその入手が困難になるということも重なりました。新型コロナウイルスが流行った国の方が解熱剤や咳止めなどを爆買いしたことや2021年11月の大阪市・舞洲の日立物流西日本倉庫の放火火災も影響しています。また、ジェネリック薬品メーカーは一つの生産ラインで多品種を綿密な製造計画を立てて製造しており、製造する薬を切り替える毎に、数日かけて、製造ラインを洗浄・検査をすることも必要で、能率の悪さも出てきますし、臨機応変に製造を増やせない構造になっています。早く正常化して欲しいものです。

出典：読売新聞オンライン『[スキャナー]夏風邪、薬不足に拍車...後発品の生産追いつかず(2023年7月25日)』、公益社団法人 日本医師会HP『医薬品の安定供給に係る現状認識と課題(2023年4月26日)』

政府がスギ花粉症緩和米の開発を本格化へ

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会によると、2019年に日本でスギ花粉症を患う人は39%になっており、国民病ともいわれています。政府は対策を模索しており、今年5月30日の「花粉症に関する関係閣僚会議」では、スギ人工林の面積を今後10年で2割減らすことなどを柱とする花粉症対策を決定しました。農林水産省所管の機構で遺伝子組み換え技術を使って、スギ花粉の改変アレルゲン含有するようにしたコメが2000年度から開発されてきました。花粉飛散の数か月前から少量ずつ摂ることで減感作療法的に症状が減るというもので、動物実験や小規模な臨床試験で有効性が見られ、毒性試験もクリアしていました。食品としての普及を目指していたところ、2007年に厚生労働省から医薬品として整理するといわれ、一方製薬会社からの協力は得られず、頓挫していました。今回改めて政府がスギ花粉症緩和米の開発を本格化することになりました。来年度から臨床試験が始まる予定です。

出典：読売新聞オンライン『「花粉症緩和米」の開発、政府が本格化へ...原因物質組み込んだイネから医薬品(2023年7月24日)』、『スギ花粉米の最近の研究開発状況』Regulation of Plant Growth & Development Vol.54, No.1, pp82-86, 2019、産経新聞HP『「商品化まで3年」が...既に10年超 「花粉症を治す米」はまだ先』、農研機構HP『スギ花粉症緩和米の研究開発について』

大人の風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種、受付中

2023年4月から四種混合ワクチンが生後2か月で可能に
2023年4月から9価子宮頸がんワクチンを定期接種で使用可能に
オンライン資格確認ができるようになっています

当科は大阪府の外来対応医療機関です

2023年2月からの診療時間帯
(予告なく変更する場合があります)

9:00～10:00

10:00～12:00

17:00～17:30

17:30～19:00

感冒症状の全くない方専用(予約不要)

何らかの症状のある方(事前予約必要)

感冒症状の全くない方専用(予約不要)

何らかの症状のある方(事前予約必要)

※予約された方は無断キャンセルしないでください。

他の方の受診機会を奪っています。

想定される感冒症状の全くない方は 乳児検診、小児一般予防接種、新型コロナワクチン接種、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種、気管支喘息等の慢性疾患の方の定期受診、皮膚疾患、便秘症など
感冒症状は、発熱、せき、のど痛、はなみず、頭痛、疲労感、筋肉痛、嘔吐、吐き気、下痢、めやに、などを指します。

8月31日(木)までの新型コロナワクチンについて

8月31日(木)までの当科での新型コロナワクチンの取扱いを○×で示します。

- 65歳以上の高齢者、12~64歳での基礎疾患等のある方、医療従事者等の令和5年春開始接種
- 5~11歳の1回目・2回目(ワクチンの供給が再開しました)
- 5~11歳の2価ワクチンでの追加接種(特定の土曜)
- 5~11歳で基礎疾患等があり、令和4年秋開始接種で2価ワクチン接種後、3か月以上空けば、令和5年春開始接種として2価ワクチンで2回目の接種が可能(特定の土曜)
- 6か月~4歳の1回目・2回目・3回目(特定の水曜の予防接種の時間帯)
- ×12歳以上の1回目・2回目
- ×12~64歳で基礎疾患等がなく、医療従事者等でもない方の3回目以降

9月1日(金)からの新型コロナワクチンについて

令和5年秋開始(9~12月)	対象となる方	努力義務
高齢者(65歳以上)	○	あり
基礎疾患を有する方(5~64歳)	○	あり
医療従事者・介護従事者等	○	なし
上記以外(5歳以上)	○	なし

今の5歳以上の3回目以降のコロナワクチンは起源株+オミクロン株BA.4-5対応です。米国の研究でこのワクチン接種後約2か月の間、死亡を60~70%程度予防する効果が報告されていますが、現在流行中のXBB.1系統への免疫付与は弱いとされています。9月からはオミクロンXBB.1.5対応1価ワクチンになる予定です。

出典：厚生労働省HP『新型コロナワクチン 令和5年春開始接種についてのお知らせ 第3版(2023年7月3日)、令和5年秋以降の接種に用いるワクチンについて』

当科のコロナ抗原検査の1週間毎の陽性率

検査日	検査数	陽性者数	陽性率	検査日	検査数	陽性者数	陽性率	検査日	検査数	陽性者数	陽性率	検査日	検査数	陽性者数	陽性率	検査日	検査数	陽性者数	陽性率		
R4.2/2~	10	3+0	30%	5/2~	9	1+0	11%	8/1~	23	12+4	65%	10/31~	11	0+0	0%	1/30~	22	2+0	9%		
2/7~	21	10+4	56%	5/9~	18	2+2	20%	8/8~	15	6+3	50%	11/7~	14	2+0	14%	2/6~	17	0+0	0%		
2/14~	11	4+0	36%	5/16~	10	1+2	25%	8/16~	20	11+6	59%	11/14~	10	3+0	30%	2/13~	3	0+0	0%		
2/21~	5	3+0	60%	5/23~	14	3+0	21%	8/22~	27	8+2	34%	11/21~	19	1+0	5%	2/20~	6	0+0	0%		
2/28~	21	13+1	64%	5/30~	8	0+0	0%	8/29~	10	4+2	50%	11/27~	18	5+0	28%	2/27~	9	0+0	0%		
3/7~	14	4+3	41%	6/6~	9	1+0	11%	9/5~	18	3+2	25%	12/5~	14	3+0	21%	3/6~	9	1+0	11%		
3/14~	14	6+2	50%	6/13~	3	0+0	0%	9/12~	26	3+1	15%	12/12~	19	3+0	16%	3/13~	11	0+0	0%		
3/21~	13	6+1	50%	6/20~	10	1+0	10%	9/20~	7	2+1	38%	12/19~	17	6+0	35%	3/20~	9	0+0	0%		
3/28~	10	0+0	0%	6/27~	8	1+0	13%	9/26~	23	6+1	29%	12/26~	7	1+0	14%	3/27~	13	0+0	0%		
4/4~	9	1+0	11%	7/4~	11	4+1	42%	10/3~	17	3+0	18%	R5.1/2~	14	2+0	14%	4/3~	8	0+0	0%		
4/11~	18	2+0	11%	7/11~	31	14+0	45%	10/11~	16	3+0	19%	1/9~	12	3+0	25%	4/10~	10	0+0	0%		
4/18~	14	3+0	21%	7/18~	36	13+0	36%	10/17~	18	4+0	22%	1/16~	33	6+0	18%	4/17~	12	0+0	0%		
4/25~	21	7+3	42%	7/25~	47	13+6	36%	10/24~	11	1+0	9%	1/23~	22	3+0	14%	4/24~	10	0+0	0%		
計、平均																			1,156	254+47	25%

当科の週別のコロナ抗原検査の件数と陽性者数、陽性率です。陽性率は(陽性者数+みなし陽性者数)/(抗原検査数+みなし陽性者数)で計算しています。当科では7月18日の週から陽性者が増え始め、7月24日の週には13名まで増えてきています。

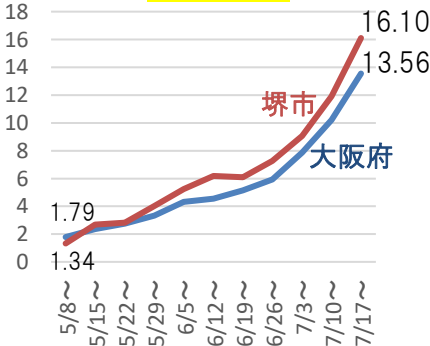
新型コロナウイルス感染症の定点報告、さらに悪化中

定点報告数

大阪府	堺市
5/8~	515 39
5/15~	686 78
5/22~	797 82
5/29~	968 117
6/5~	1,256 152
6/12~	1,324 179
6/19~	1,506 177
6/26~	1,754 211
7/3~	2,330 263
7/10~	3,036 346
7/17~	4,028 467

大阪府で約290、堺市で約29医療機関

定点当たり



新型コロナウイルスの定点報告で、大阪府、堺市とも報告数・定点当たりともどんどん悪化してきています。堺市は定点当たりで大阪府の11ブロック中、6月12日以降、ほぼ毎週ワーストを続けています。

出典：大阪府感染症情報センターHP『新型コロナウイルス感染症 発生状況 2023年 第19週~第29週』

8月・担当医の変更

- 1日(火) 赤澤→片桐
- 19日(土) 片桐→赤澤
- 26日(土) 片桐→赤澤

当科の夏季休診日 11日(金)~15日(火)まで休診とさせていただきます。

堺市子ども急病診療センターのお盆体制	受付時間	13日(日)	14日(月)	15日(火)
	9:30~11:30	○	×	×
	12:45~16:30	○	○	○
	17:30~翌朝4:30	○	○	○

今年に関しては、堺市子ども急病診療センターは14日(月)と15日(火)の午前の診療がありません。

出典：堺市子ども急病診療センターHP『お盆(8月13日~8月15日)診療のご案内』